

おお大勝利

平成 31 年度 / 令和元年度 山東サッカー部報第 10 号 (9 月 5 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Y2A 第 11 節山南戦・12 節明正戦 連敗

8 月 24 日 (土) Y2A 第 11 節山形南戦が行われました。この試合、新チーム同士の対戦で東南定期戦が実現するという意味、夏を経てチームが試されるという意味、そして 18 日 (日) に一度練習試合で対戦し負けている相手にどのように迫ることができるかという意味、様々な意味のこもった試合。練習試合では山南の鋭い出足、確かな球際に対して、判断が遅く、ボールコントロールが乱れ自分で余裕をなくしていく山東の選手が勝手に崩れ、山東としてはあまり良いところがなかった。確かに遠征等では高い位置からプレッシャーをかけるチームが少なく、後ろで余裕をもってボールを回すことができ、「ボール回しの練習」にはかなりなった。山東はこの点でも課題があったので、トレーニング効果の高い夏の遠征だった。ただ、選手もわかっていたことだが、**高い位置から相手にしっかり寄せられたら、こうは簡単にボールを回せない**。山南との練習試合は、この「頭でわかっている」現実を身に染みて思い知らされ、自分たちの現状を見つめることができた。さあ、公式戦に向け、山東諸君、プレーを変えられるか。会場は山形中央高校 G。

清野総監督、工藤先輩、後藤報道局長の「いつものお三方」はいつも通りいらっしゃる。プラスして、**山東サッカー部元監督にして山形南高校現校長の大沼先生¹**もいらっしゃり、山東ベンチにも挨拶に来て下さった²。

さて、山南はリーグ戦前期からワイドな攻撃を仕掛けてくる。前期の 4 バックの時もその攻撃に手を焼いたのだが、新チーム発足からずっと用いている 3 バックのシステムだと、逆サイドのウイングバック (WB) がしっかり戻れていないとますます山南のワイドな攻撃の餌食になる。

「ワンタッチでプレーする選択肢を必ず持つこと (必ずワンタッチのプレーを選択する、ではない)」、「逆サイドの WB のポジション」について確認して、選手を送り出す。

試合が始まると、最初から山東のバックの浮き球の処理 (特にボレー) に安定感がなく、クリアミス連発。入りから嫌な流れ。**山南は球際厳しいだけでなく、マイボールをしっかり次につなげることができる**。技術と戦術眼の違いが、ボール保持率とチャンスメイク数の違いに直結している。山東は時折カウンターを仕掛けるものの、厚みがなく散発的だし、何より落ち着きがない。苦しい展開にただ耐えていた前半、**中盤での山東の緩い球際**から山南に正確な浮き球パスを通されてしまい、それをうまく収めた選手の正確なフィニッシュがネットを揺らし、山東失点。確か前半、山東は CK から**ヤグチ**が惜しいヘディングシュートを放ったくらいしかチャンスがなかったか。

¹ 30 歳前後の OBOG の知っている**ヌマシンこと大沼先生**ではなく、40 歳前後の OBOG に知られた**敏美先生**。

² 私が高校 3 年生の時、山東に赴任され、故佐竹監督 (元校長)、部報前号に登場した正浩部長率いるサッカー部の顧問になられましたので、私も大沼先生の教え子の一人です。

後半も同じ展開。山東の攻撃がシュートまでいかない。山南は、山東の（ポジショニングの）低い WB と、高い 2 シャドーの間のスペースを有効に使ってくる。山東のシステムは 3-4-3 と表現されるものだが、WB が高い位置を取れないため常に低く、2 シャドーは攻撃的な選手のため（または前からはめるとき開いた相手 CB がマッチアップ相手という約束事のため）相手 SB のオーバーラップへの対応が遅れ、常に高く、**3-4-3 が 5-2-3 となり、2 の両脇を自由に使われている**。後半中盤、それでも（低い位置を取っていても）逆サイドの WB の外側に素晴らしいサイドチェンジのパスを通され、そのまま冷静にフィニッシュされ、追加点を許す。**結局 0-2 の完敗**。

奇しくも前期と同じスコアでの敗戦となりましたが、押され気味ながらビッグチャンス複数回作った前期の戦いと、ほとんどノーチャンスの後期の戦いには雲泥の差がありました。夏を経て山東が向上していないわけではないのではないと思いたいが、少なくとも着実な向上を感じることができなかった。残念。

翌 8 月 31 日（土）は Y2A 第 12 節山形明正戦。11 節が終わった時点で、山東とはリーグの勝ち点で並んでいる。今期 M リーグでは山東の勝利、Y2A 前期はかろうじて引き分け。新チームでの戦い、厳しいものが予想される。システムは、4 バックとの併用を目指し、この試合久しぶりの 4 バックで臨む。（足先だけでなく）体でボールを取りに行くこと、ワンツーについていくこと、押され気味の展開でもしっかりと粘ることなど、当たり前のことを確認して試合に臨む。会場は明正 G。

試合が始まると、**明正の奔放なスキルとアイディア**の前にまさに「タジタジ」。**山東のパスは基本ほとんどパスミス**。（パスの）受け手が出し手のことを思いやった動き・ジェスチャーができないためもあり、単純に出し手のスキル不足、判断力の欠如もあるだろう。残念ながら、攻め込むどころか攻撃の一步目から成り立たない。前半 6 分に山東右サイドの稚拙な対応を破られ、CB の対応も万全ではなく、ほぼフリーでファインシュートを打たれ、早くも失点。その後も、一方的に攻められ、ショートカウンターから 1 点目よりもさらに素晴らしいシュートを打たれ、2 失点目（前半 22 分）。3 失点目は CK から。**1 年 GK コーセー**、前に出てパンチングに行きますが触り切れず。流れたボールを押し込まれる。**コーセー、あそこはしっかり弾いてほしかった**。結局その後も山東の良いところはなく、もう 1 失点し、**前半 4-0**。

後半は**そのコーセーを FW！に上げ、2 年 GK カザマを投入するなど、流れを変えに行く**。コーセー、混戦の中でもうまくボールを収めてくれるし、何より相手のボールに対するアプローチが良い。しっかり奪いに行く気で寄せている（アリバイ作りのアプローチではなく）。後半は明正が交代カードを多く切るなど攻撃のペースをダウンさせたおかげで、前半程の波状攻撃を受けず、山東も少しボールを冷静に持つ時間は増えたが、決定機を作れない山東と惜しいシーンを何度も作り出す明正という構図は変わらず。結局明正の中盤の重鎮にここだけというコースにミドルシュートを突きさされ、後半も失点し、**0-5 の完敗**に終わる。明正は先発に 5 人 1・2 年生がいたし、その後もどんどん新チームのメンバーが増えて行った。それを考えると、「相手は 3 年のチームだから」という言い訳は通じないし、**そういう言い訳のできる内容の試合ではなかった**。何より相手は最後ほとんど新チームだったし。

ということで、**リーグ戦 2 試合とも、良いところなく、夏休みの上積みが感じられなかった山東**。このままでは、3 年オサが選手権のために残ってくれた気持ちに応える試合ができない。かなりの危機感を持ちました。次節どうなるか。引き続き、応援よろしく願います。

9 月 7 日（土）Y2A 第 13 節 山形城北 B 戦 11:30 キックオフ @山形中央 G